



三気の門

PORTAL SANKI

NO.10
2026.6.9
文責：佐藤正一

スマホは子供から言葉を奪う。その2

～国語力の低下とスマホの関係 ノンフィクション作家 石井光太氏の講演～

前回の続きです。子供に早くからスマホを与えると「バカになる」という言葉を述べたのは、数学者で「教科書が読めない子供たち」の著作で有名な新井紀子教授です。「バカになる」とは過激ですが、私も「読解力」や「考える力」が奪われていると経験的に思います。石井氏も同じようなことを話していました。

「スマホは目的を達成するためのツールに過ぎないのです。だから、スマホそのものが目的となっ**て**はいけません。例えるなら「パワースーツ」。介護知識があり、しっかりと心身をもつ大人が使うなら、最良の道具。それを子供が使ったらどうなるか。介護知識のない子供が使えば**事故**になる。成長途中の子供が使えば、筋肉が衰え、成長を阻害してしま**う**。スマホも同じなのです」

以下に整理してみました。

- ・スマホは**子供の愛着形成を阻害する可能性が高い**。愛着形成には人と人のリアルなつながりが不可欠である。
- ・スマホはコミュニケーションがある大人には**武器**となるが、**成長過程の子供のコミュニケーション能力を伸ばすツールにはならない**。
- ・スマホはリアル世界に居場所がある大人には**リラックスのツール**になるが、**それがない子供には現実逃避**になるだけ。

以上から、保護者は次のようなことを念頭において教育する必要があります。

- (1) **スマホは十分な成長を遂げた大人が使用する道具**である。
- (2) **子供に必要なのは「十分な成長」それをスマホにゆだねるのは危険**。
- (3) **大人も子供もそのことを認識した上で、スマホの利用時間や状況に一定の自己規制をかけないと**いけない。



しかしながら、現状は一人に1台スマホをもつ日本。子供にスマホを持たせないようにしようと言っても難しいのは事実。スマホで電子決済、スマホが切符代わりになる。スマホで申し込む…生活に欠かせない仕組みができあがっています。

それでも諸外国では16歳以下に制限を加えるなど、危機感を持ち始めたところもあります。私たちも上記のことを踏まえた上で教育にあたる**こと**が大切なのです。